

MHC創立 20 周年記念事業

松本市カトマンズ市姉妹提携 20 周年記念

「岳都カトマンズ訪問&世界最高峰エベレスト 8848m撮影紀行Ⅱ」報告概略

「岳都カトマンズ訪問&世界最高峰エベレスト 8848m撮影紀行Ⅱ」は、12月23日～2010年1月10日までの日程(別紙)で松本市民を始めとする参加者18名(別紙)により実施致しました。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して古都カトマンズを探訪し、エベレスト山群の奥深く入り込み、カラパタール・ピーク 5545mの登頂を見事果たして、松本市カトマンズ市姉妹提携 20 周年記念事業としての岳都交流と、姉妹都市交流の責任も果して参りました。



12/24 PM11:00 カトマンズ市長代理、ガネッシュ・ライ氏を表敬訪問し、歓迎を受ける。



シティ・ホール前で記念撮影をする。前列右から4人目が、ガネッシ・ライ、カトマンズ市長代理



12/24 カトマンズの世界文化遺産、スワヤンブナートを訪ねる。385 段の階段を登る。



カトマンズ旧市街、アッサン・トーレを巡り、庶民的大賑わいに驚く。



街の中央に建つ、歴代の王妃を祀るラーニ・ポコリ



スワヤンブナートの丘から望むカトマンズ市街



12/25 早朝ホテルを出発。定期便で登山基地ルクラへ向かう。7000m級ロールワリンヒマール山群の白峰に感動。



AM11:15、エベレスト街道登山基地、ルクラへ到着。コンデリの末端峰が望まれる。



昼食後、PM12:30 パサン・テンバをサーダに、シェルパら 20 名とゾッキョなど 11 頭の大部隊で出発。



経文が彫られたマニ石脇を通る荷物隊。大きなマニ車を廻し登山の安全を祈る。チベット仏教を信仰するマニ石が立ち並ぶ。



第一日目の宿泊地、パグディンの朝食。



荷物隊、ゾッキョに荷を担う。



出発小一時間でタムセルク 6623mを望む。



勉学に励む子供達

午前中モンジョ村を通過し、ジョサレで手続を行い、国立公園へ入る。その先で昼食を摂り、吊橋を渡る。



河原を小1時間歩き、最後のつり橋を渡って、600mの高度差の登山道を登る。



山道を登る背後に、真白なクスムカングルが望まれ、憧れのエベレストが枝越しに僅か遠望する。PM3:30 ナムチェ・バザール 3440mに到着する。ナムチェのロッジで一息つく頃、ナムチェの家並みの遥かの高みに、タムセルク 6623mが夕陽に輝いていた。



12/27 ナムチェゴンパのマニ車を廻し、登山の安全と成功を祈って、トレッキング開始する。



登り 2 時間余、エベレスト 8848m を望み大パノラマに息を呑む。右にタムセルク 6623m がそそり立つ。



クンビーラ山の麓に広がるクムジュン村と冬休み中のクムジュン校を訪ねる。

MHC が建設した学生寮・食堂・台所・600m引き込んだ貯水槽などの管理運営を確認。安曇野市穂高北小学校の手紙・絵画・文具などを手渡しクムジュン校先生やペンバ・ツェリン運営委員長らと MHC 理事長との間で、意見交換し合う。



12/28、クムジュン村 3790mを出発。山腹を下降し溪流の橋を渡り、ブンキタンガからラリグラスの林を抜け、カンテガを見上げながら、高度差 670mを登ると、チベット仏教寺院が建つタンボチェに抜け出る。



タンボチェ 3867mから望む、エベレスト 8848m左、ローツェ 8516m右の大展望。



夕方、早速チベット仏教総本山、タンボチェ寺院に参詣をする。



12/29 快晴の朝、パンボチェを經由して、ショマレで昼食。午後ディンボチェ 4340mへ向う。



ローツェを望み、タンボチェからショマレへ向かう。



ショマレでは野外で昼食



子供達が冷たい水で洗濯をしていた。



12/29PM4:30、ディンボチェ 4340mに到着。夕陽に映えるローツェが美しい。12/30 同所に滞在し、高度順応をはかるため、ナンバルゾンピーク 4800m付近まで登る。



12/30 ナンガルゾンピークへ試登する。山腹はエーデルワイスの花園だった。この夜、積雪となった。



12/31 夜来の降雪により、真白な雪景色の中を進む。トゥクラで昼食。欧米の大勢のトレkkerと出会う。



午後、凍てついた溪流沿いに、ロブジェ 4930mへ向う。夕方、ロブジェから夕陽の染まるヌプツェ 7855mを望む。



2010.1/1AM5:25、高山病で待機する1人をシェルパと共に残し、凍てつく積雪と強風の闇の中、ヘッドランプを点けて、ロブジェを出発。途中なだらかな岩場を登ると、ヌブチェの山腹越しに輝く初日の出を拝す。
AM9:00 ゴラクシェップ 5100mに到着。風の止むを期待してAM10:40 カラパタール目指して出発する。



ゴラクシェップに、高山病で待機する1人を残し、参加者16名と、サーダー、シェルパらと共にピークを目指す。なだらかな山道を一步一步登る。酸素ボンベも駆使し、5400m付近を登る参加者。



クーンブ氷河を眼下に、ピーク近くの岩場 5500m付近を登る。後方にエベレスト 8848mを望む。



PM2:15 辛苦を乗り越えて 16 名が頂上に到達。「おめでとう、頑張ったね！」感激の握手を交わし合うと、目頭が熱くなり、涙があふれてくる。皆、口では言い表せない喜びに浸っている。
この日、PM4:00 ゴラクシェップに無事帰還、泊す。



カラパタールから望む、世界最高峰エベレスト 8848mとローツェ 8516m



エベレストの雄姿、ネパールではサガル・マータと名づけられている。



1/2 ゴラクシェップから下りペリチェに泊す。夕方ペリチェから望むアマ・ダブラム 6812m



1/3 ペリチェを出発。パンボチェを過ぎ、アマ・ダブラムを背景に街道を行く。PM3:30、タンボチェに到着、泊す。夕方、夕陽に染まるエベレスト 8848mを望む。



高所に生息するヤク



1/3 タンボチェから望む、夕陽に輝くエベレスト左とローツェ右



クムジュンの子供達



1/4 午後クムジュン村に到着。休憩の後、クムジュンゴンパを参詣する。



クムジュンゴンパの仏像と経典



経典を読経するサーダー



ゴンパ壁に取り付けられたマニ車



1/5 クムジュンを出発。チョルテン(仏塔)脇を抜けてナムチェを通り、急坂を降り続け、モンジョに泊。1/6
モンジョから全員元気に歩き、午後3:30ようやく出発地のルクラへ到着する。



夜、トレッキングの成功を新鮮な焼き鳥で祝い、大きなケーキが作られた。参加者は三池炭坑節を踊り、シ
ェルпараは、勇壮なシェルパダンスを披露してくれた。「無事帰還、おめでとう！」



「おめでとう！」



1/7 朝、サーダーから参加者全員に、勇気を讃え、敬意が表すカタがかけられた。宿舎前で、記念撮影する。
この日2機の定期便に分乗し、昼過ぎまでにカトマンズのホテルに、全員無事帰還する。



1/8 カトマンズ市役所の計らいで、世界文化遺産旧王宮ハヌマンドカを訪問。また午後、ボドナート、パシュパティナートの文化、宗教遺産も訪ね、夜は、ガネッシュ・カ市長代理を招待して、報告会を開催しました。



フラ・タシ



フバ・ソナム



ミグマ・ヤンジ



ニマ・ラム



ペンバ・ジャム



チェティン・ダルジ



ニグマ・ヌル



ニマ・ドマ



ペンバ・ジャム



ペマ・チェミジ



タシ・フティ



事務局長パサン・ダワ

全員、カトマンズの短期大学に通学。経営学、教育学コースなどを専攻し苦学しています。若い彼らが、シェルパの村を、ネパールを背負って立つ事でしょう。



1/9 奨学生らと昼食を共にし、学生生活について語り合いました。MHC 大河原由紀子カ支部長



1996年設立後のMHC奨学生は、延べ52名を数え、エベレスト街道で男女卒業生に出会う事があります。皆で、応援してあげてください。1/9夜遅く、混雑するカトマンズ空港を発ち、1/10PM2:15に、成田空港へ到着。貸切バスで松本へ向かい、PM7:30に到着、最終解散としました。

皆様のご理解と、ご協力のお陰で、MHC20周年記念事業の成果を挙げる事ができました。ありがとうございました。

岳都カ訪問&エベレスト撮影紀行総責任者 MHC 理事長 鈴木 雅則